

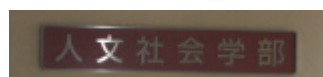
大学「改革」あれこれ（１）

名古屋市立大学人文社会学部ができて12年近く経つ。短大改革・教養部改組など、当時の大学「改革」の動きのなかで新学部は誕生した。学部創設から現在まで、なにかと重要な「役回り」をしてきた一人して、12年目の人文社会学部にはそれなりの愛着がある。短大時代から大学「改革」に振り回されてきた感があるが、学部の「いま」を伝えておきたい。

写真のように、学部棟玄関は大きく「1号館」と表示され、人文社会学部と人間文化研究科という看板は目立たなくなっている。卒業生が訪ねてきたら、まごつくであろう。7階建ての学部棟は、狭いキャンパスのなかで目につく建物だ。



「2号館」と呼ばれる教養教育棟とつながっており、学生にとって利便性は高い。学部長の時の挨拶で、季節感を味わえる緑豊かなキャンパスとともに、こうした利便性を強調したものだ。



12年前に入学した1期生から、多くの卒業生を社会に送り出してきた。1期ないし2期生からは、名古屋市役所の係長試験に通ったという知らせをもらうようになった。公務員だけでなく、メーカーや金融、マスコミなど幅広い分野で活躍する卒業生の話を聞くのが楽しみだ。本学部への受験生も、ずっと安定的に推移している。予備校による「偏差値」も上昇傾向にあるようだ。いわば入口と出口の両面で、12年の「実績」が積みあがってきている。本学の「大学満足度調査」をみても、人文社会学部の評価の高さがわかる。



現在の吉田研究科長・学部長も一新された案内冊子で次のように述べている。「人文社会学部および大学院人間文化研究科では、『過去 現在 未来』という時間軸を縦軸に、また『地域 - 国家 世界』という空間軸を横軸にして、現代の諸課題を縦横に分析し、よりよい未来、よりよい名古屋、日本、国際社会を展望する研究と教育を進めている。」こんな学部に向けて、とくに法人化を契機に厳しい風が吹いている。ここにきて、風はいちだんと厳しさを増してきているようだ。

現在の吉田研究科長・学部長も一新された案内冊子で次のように述べている。「人文社会学部および大学院人間文化研究科では、『過去 現在 未来』という時間軸を縦軸に、また『地域 - 国家 世界』という空間軸を横軸にして、現代の諸課題を縦横に分析し、よりよい未来、よりよい名古屋、日本、国際社会を展望する研究と教育を進めている。」こんな学部に向けて、とくに法人化を契機に厳しい風が吹いている。ここにきて、風はいちだんと厳しさを増してきているようだ。

(2008年9月26日 記)